



2020年3月期 決算説明資料

2020年5月15日

証券コード：4022

目 次

- 1. 事業概要**
- 2. 2020年3月期実績及び2021年3月期見通し**
- 3. 中期経営計画の進捗状況**

1. 事業概要

事業概要

会社概要

商号	ラサ工業株式会社
本社	東京都中央区京橋一丁目1番1号
創業	1913（大正2）年 5月 1日
設立	1918（大正7）年 6月 26日
従業員数	574名（連結）

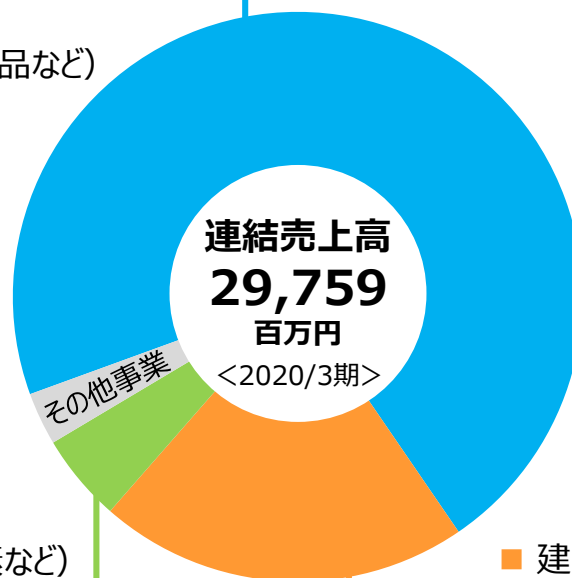
<2020年3月31日現在>

化成品事業 21,089百万円／70.9%

- リン系製品
リン酸（一般品、電子工業向け高純度品など）
リン酸塩など
- 凝集剤（水処理用など）
- その他（コンデンサー向け原料、
消臭剤など）

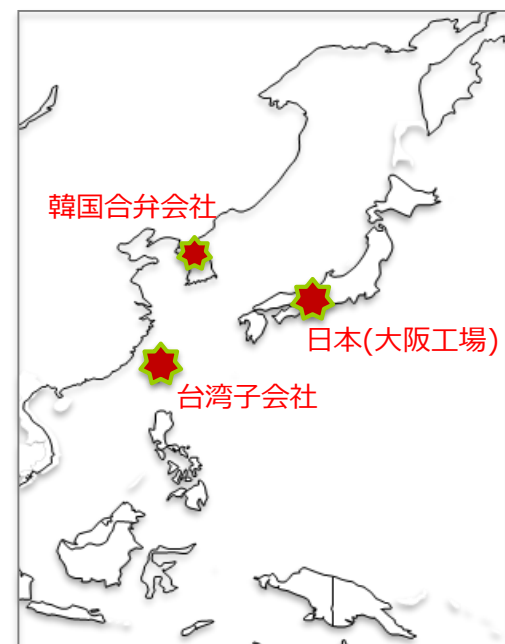
- 化合物半導体向け高純度無機素材
（ガリウム、インジウム、赤リン、酸化ホウ素など）
- 放射性ヨウ素吸着剤

電子材料事業 1,364百万円／4.6%



- 建設機械（破碎機、選別機、粉体機器）
- 土木機械（掘進機（上下水道向け））

機械事業 6,131百万円／20.6%



<半導体向け高純度リン酸の製造体制>

2. 2020年3月期実績及び2021年3月期見通し

2020年3月期 決算概要

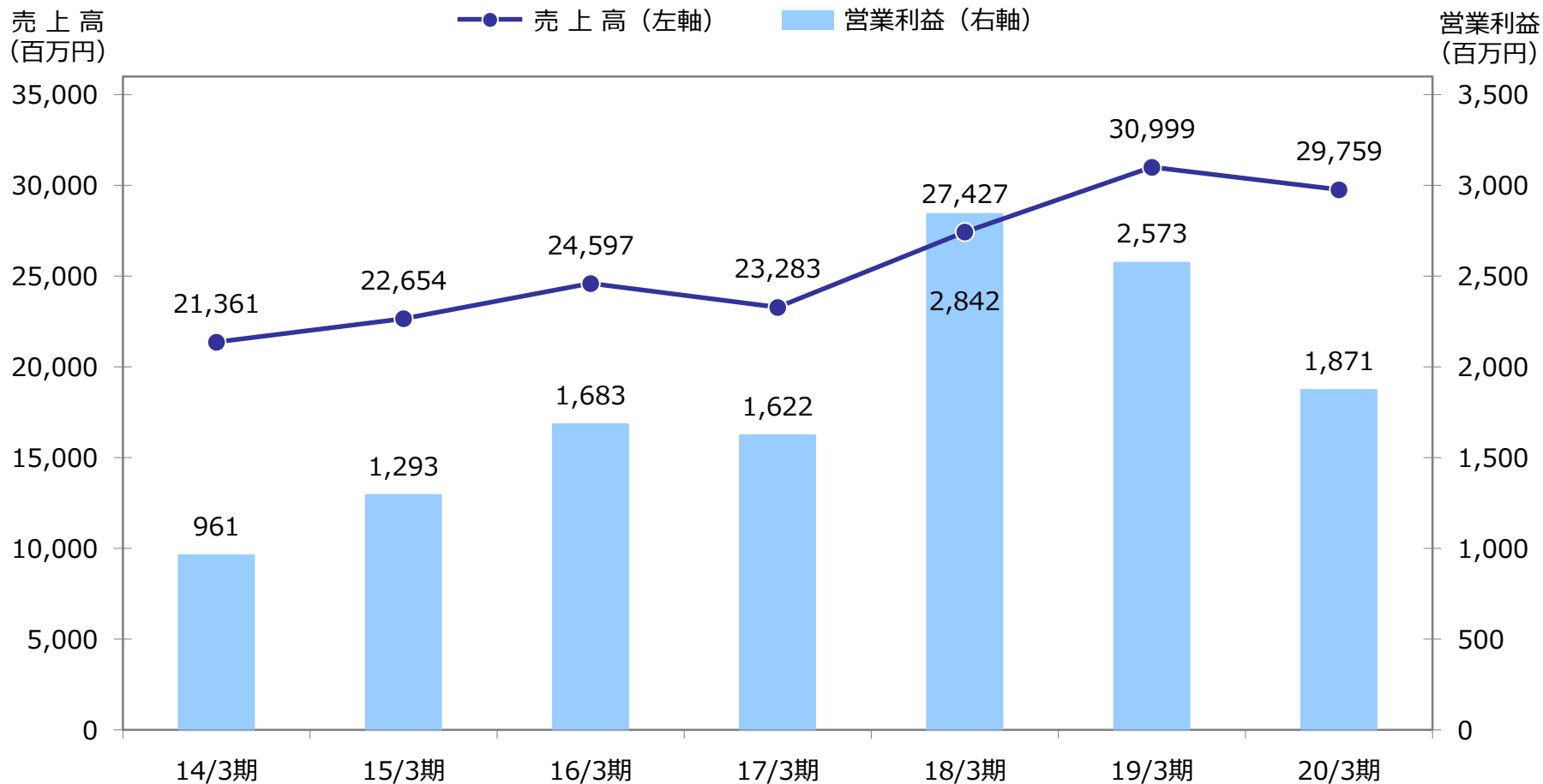
- 売上高は、電子関連市況の悪化の影響により、減収。
- 営業利益は、前期に寄与した放射性ヨウ素吸着剤の販売が無かったこと、原料価格の上昇、減価償却費の増加等により、大幅な減益。
- ただし、化成品事業での需要の持ち直しもあり、利益面で業績予想を上回る。

(単位：百万円)

	2019/3期	2020/3期	増減	前年同期比	業績予想	増減
売上高	30,999	29,759	△ 1,240	△ 4.0%	30,500	△ 741
営業利益	2,573	1,871	△ 702	△ 27.3%	1,700	171
経常利益	2,618	1,726	△ 892	△ 34.1%	1,550	176
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,274	1,377	△ 897	△ 39.4%	1,100	277
1株配当金	40.00円	40.00円	—	—	40.00円	—
(減価償却費)	1,322	1,441	118	8.9%		

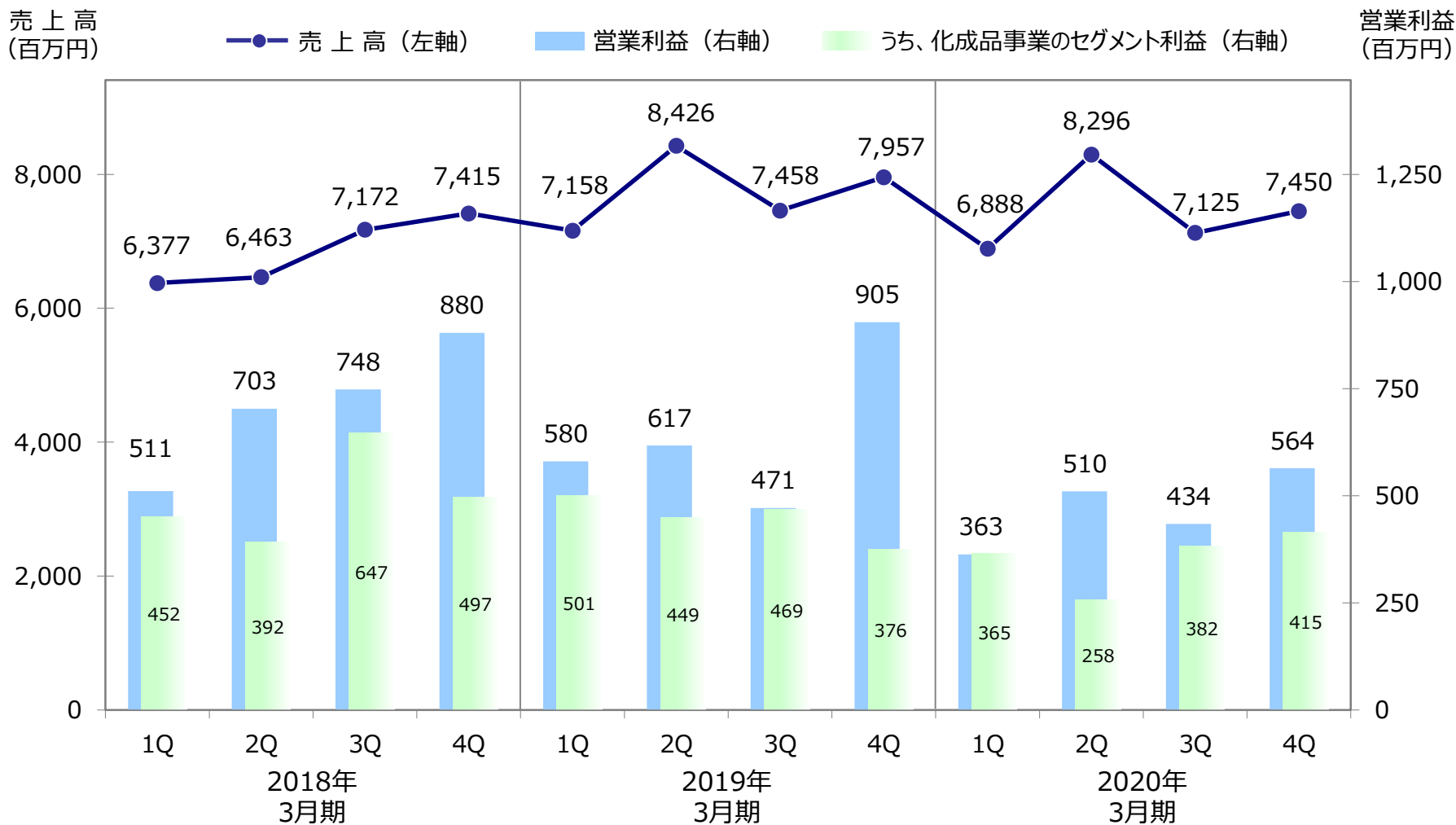
年度業績の推移

売上高と営業利益の推移



四半期業績の推移

四半期売上高と営業利益の推移



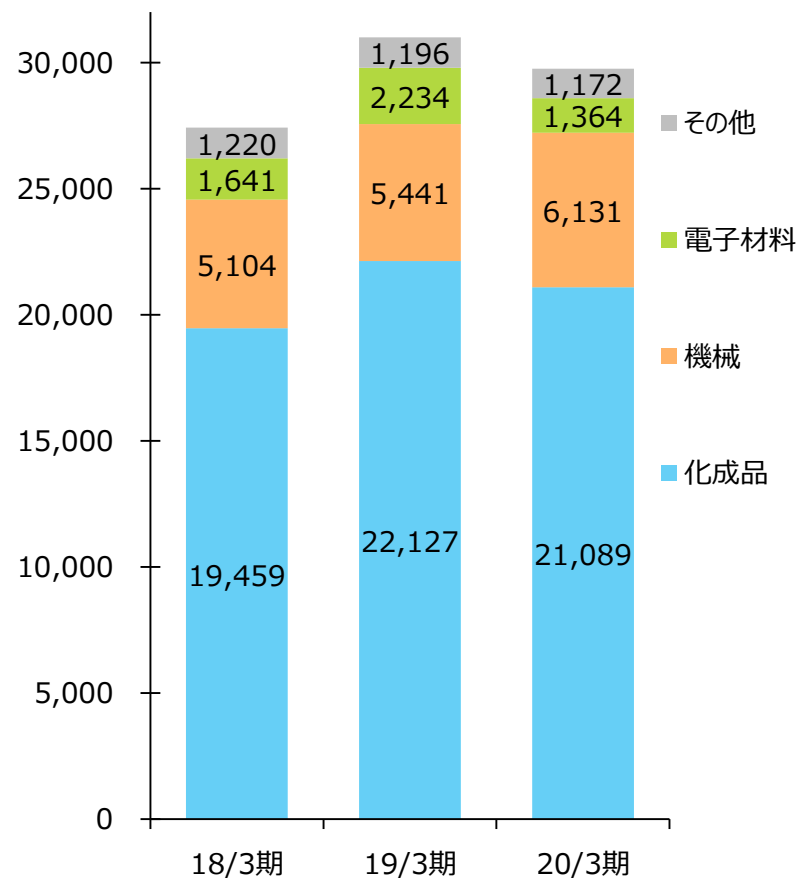
2020年3月期 セグメント別概要（売上高）

売上高の推移

（単位：百万円）

	2019/3期	2020/3期	増減	前年 同期比
化 成 品	22,127	21,089	△ 1,038	△ 4.7%
機 械	5,441	6,131	690	12.7%
電 子 材 料	2,234	1,364	△ 870	△ 38.9%
そ の 他	1,196	1,172	△ 24	△ 2.0%
合 計	30,999	29,759	△ 1,240	△ 4.0%

（百万円）



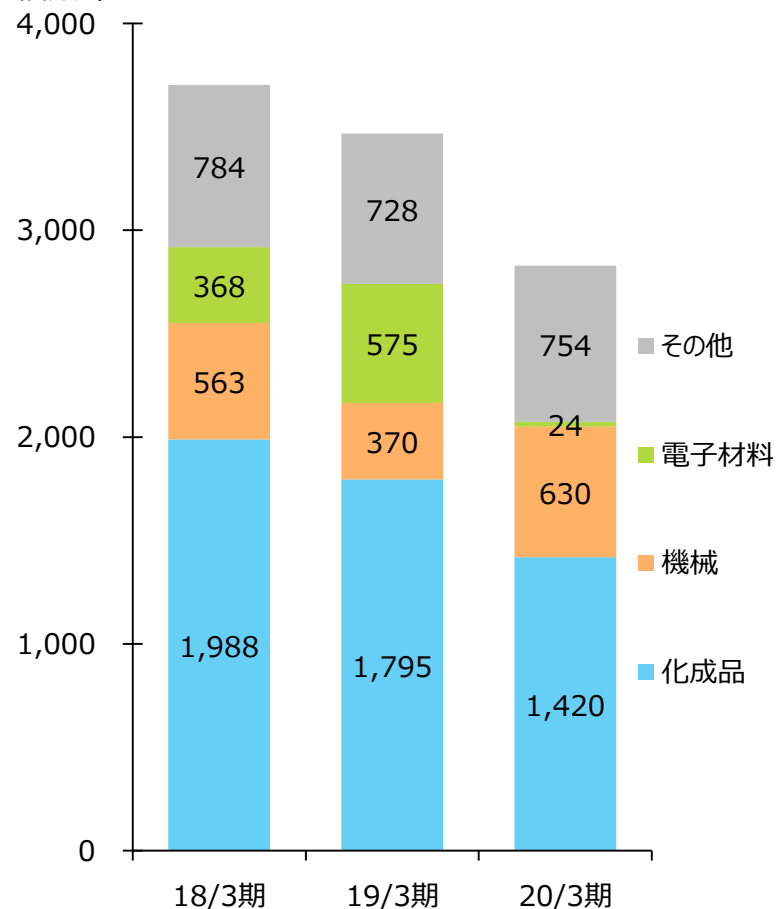
2020年3月期 セグメント別概要（利益）

セグメント利益の推移

（単位：百万円）

	2019/3期	2020/3期	増減	前年 同期比
化 成 品	1,795	1,420	△ 375	△ 20.9%
機 械	370	630	260	69.9%
電 子 材 料	575	24	△ 551	△ 95.8%
そ の 他	728	754	26	3.6%
（ 調 整 額 ）	△ 897	△ 957	△ 60	-
合 計	2,573	1,871	△ 702	△ 27.3%

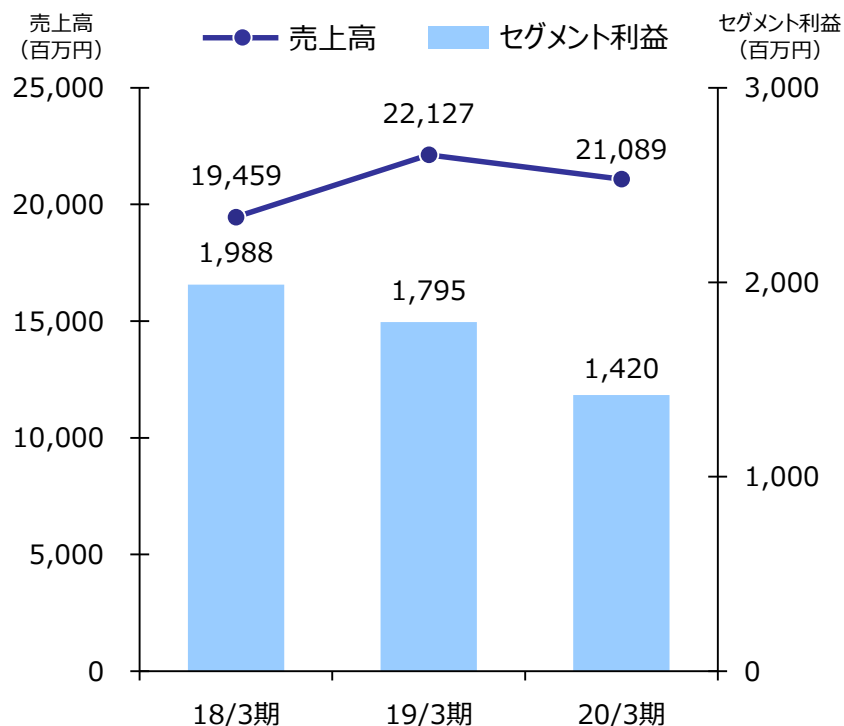
（百万円）



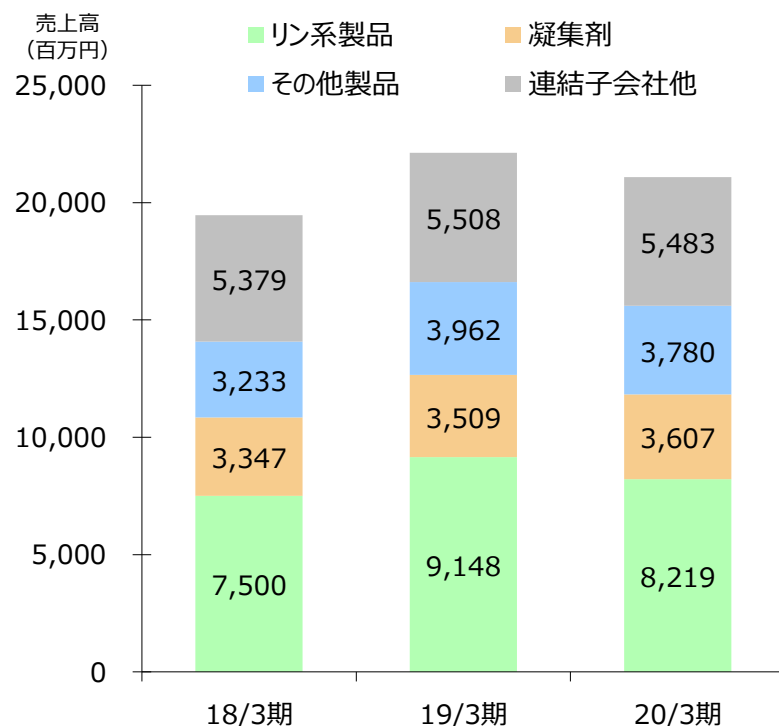
化成品事業

- リン系製品は、電子工業向け高純度品はやや増収、光学分野向け材料や購入品販売が大幅な減収。
- その他製品は、コンデンサー向け原料が、ユーザーの生産調整により減収。

【化成品事業】 売上高とセグメント利益の推移

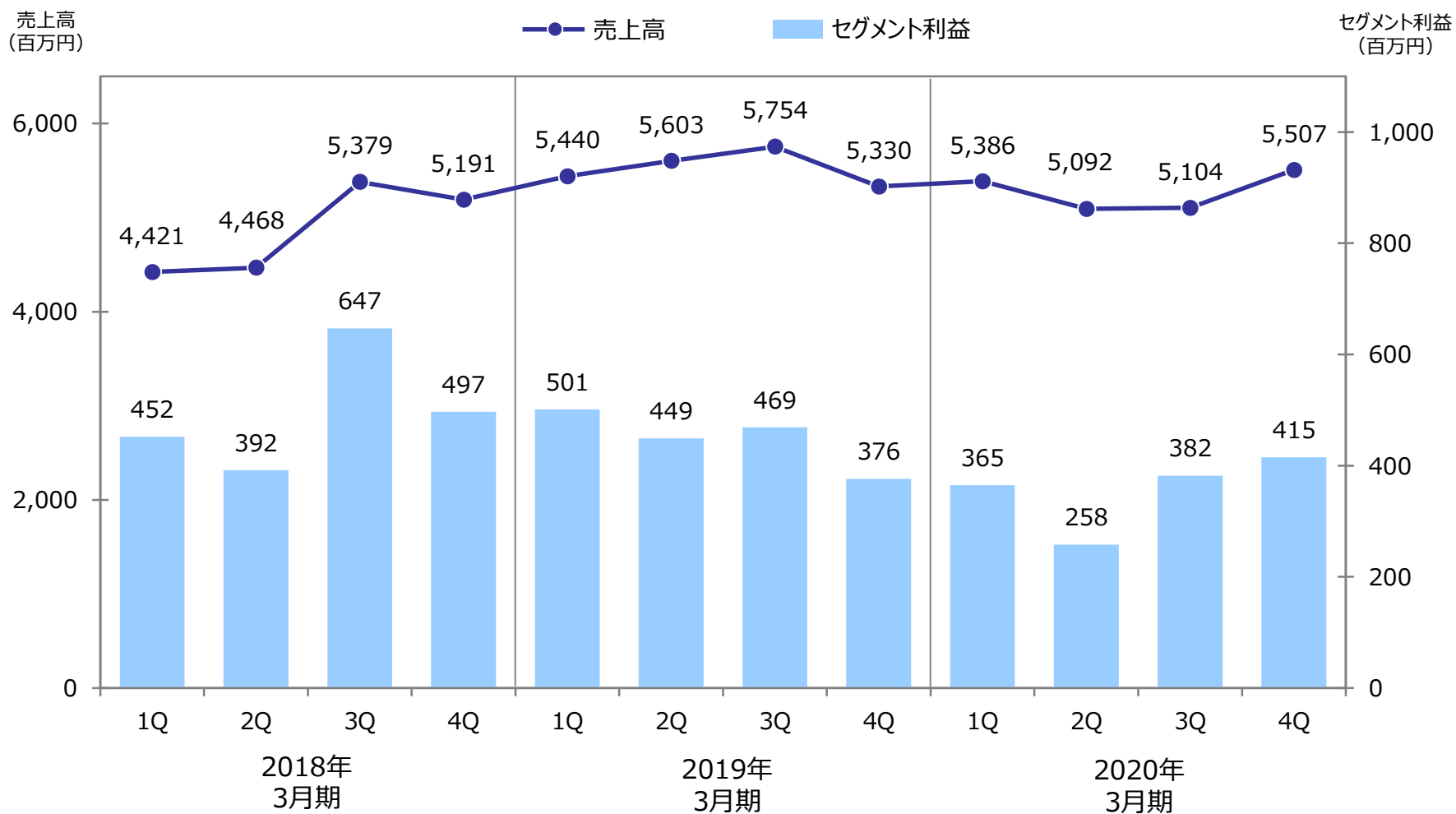


【化成品事業】 製品別売上高の推移



化成品事業（四半期業績）

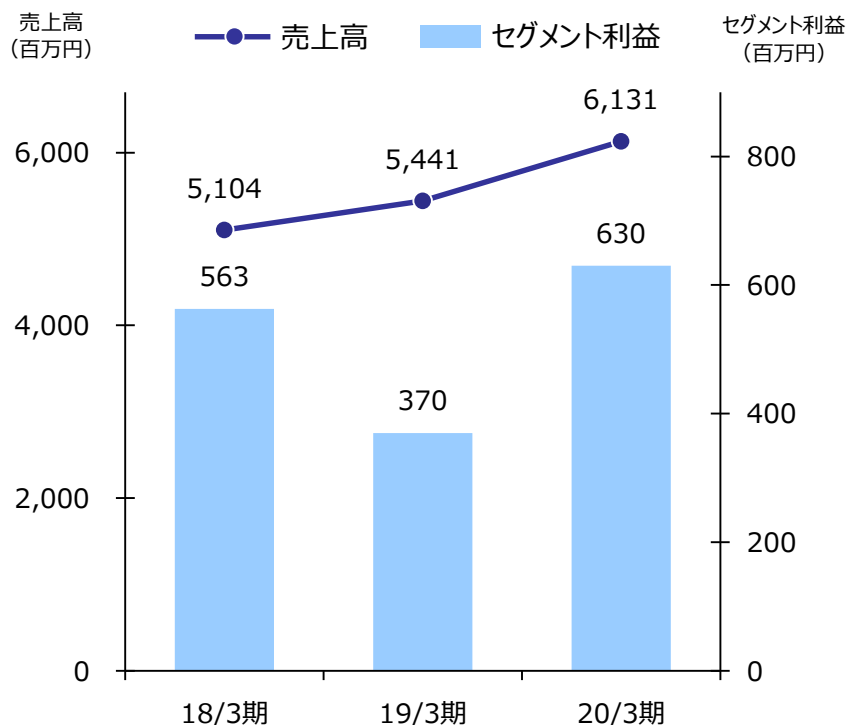
【化成品事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



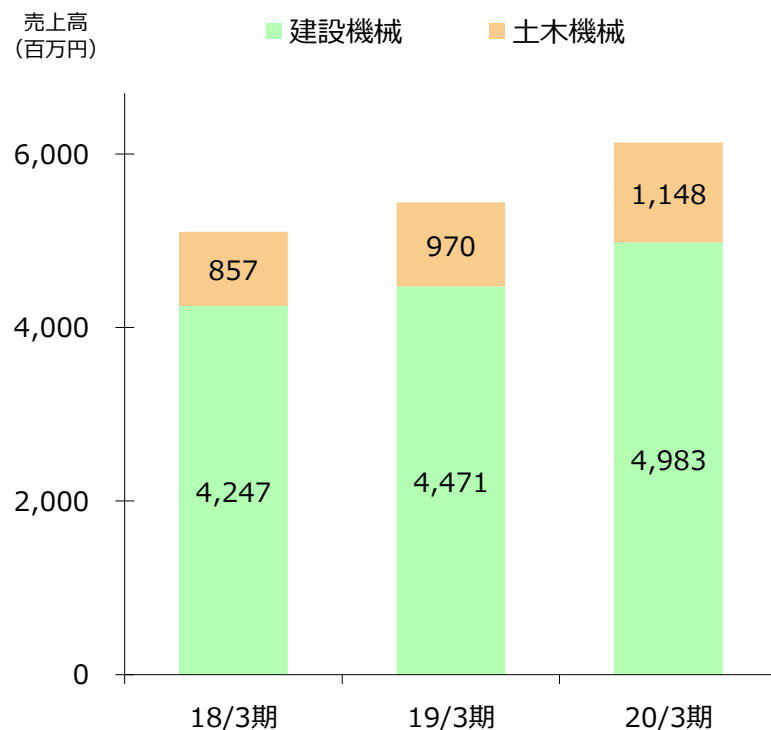
機械事業

- 建設機械は、中間貯蔵施設向けや大雨災害関連の大型プラントが寄与し、増収。
- 土木機械は、掘進機の本体販売が海外向けに計画通り出荷し増収。

【機械事業】 売上高とセグメント利益の推移

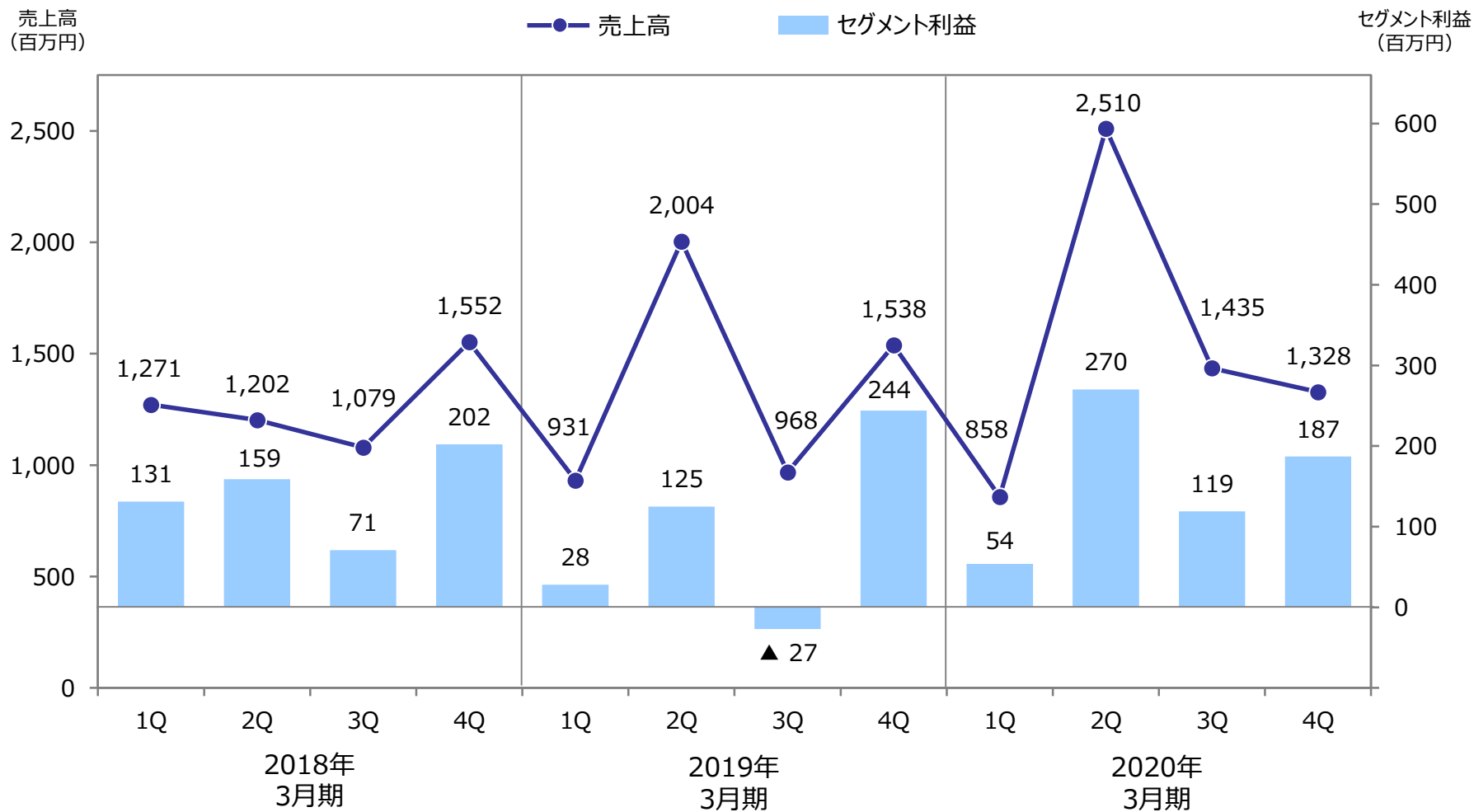


【機械事業】 製品別売上高の推移



機械事業（四半期業績）

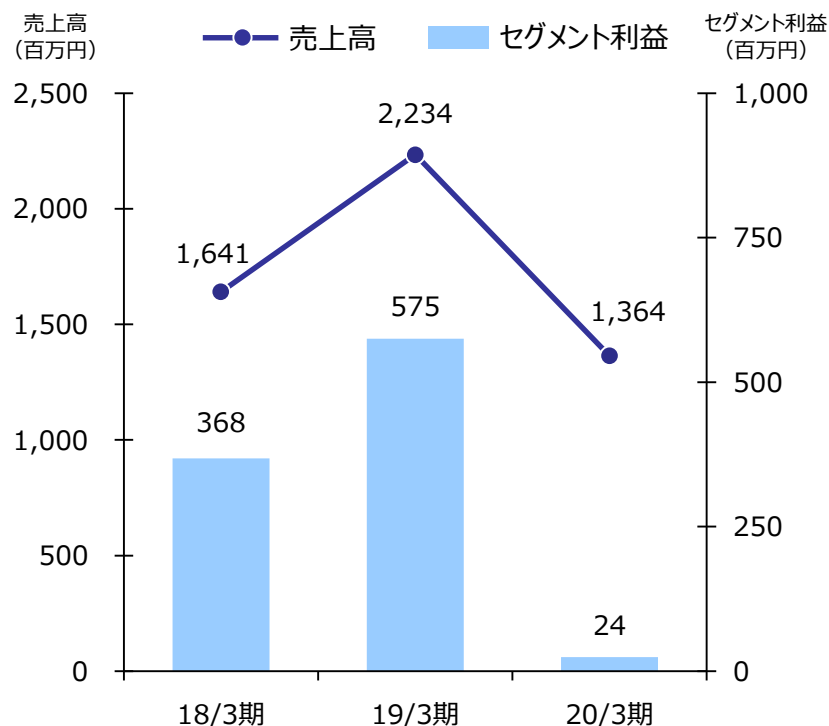
【機械事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



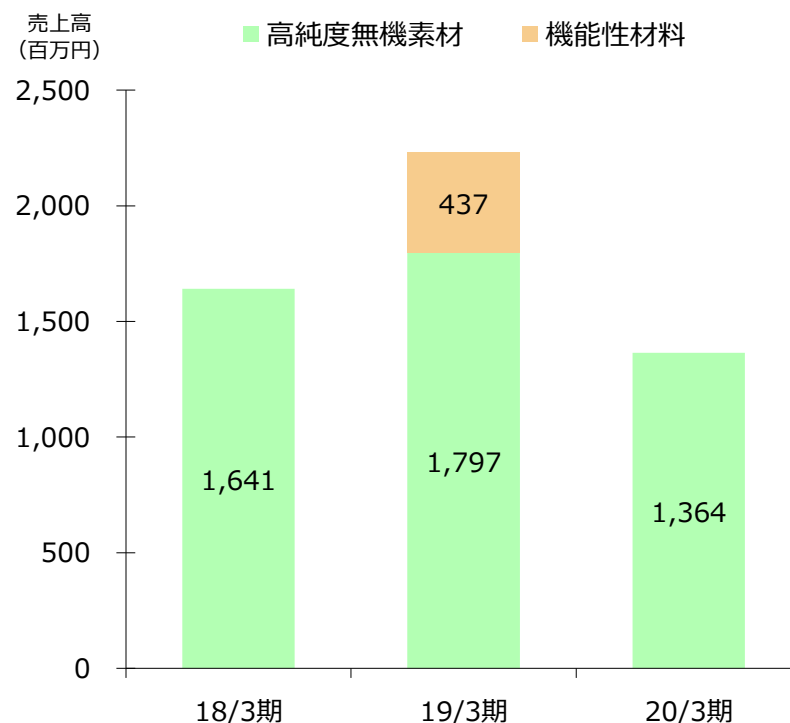
電子材料事業

- ガリウム、インジウム市況の低迷継続とユーザー需要の減少、また在庫評価損もあり、大幅な減収減益。
- 前期に寄与した放射性ヨウ素吸着剤の販売が無かったこともあり、減収減益。

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の推移

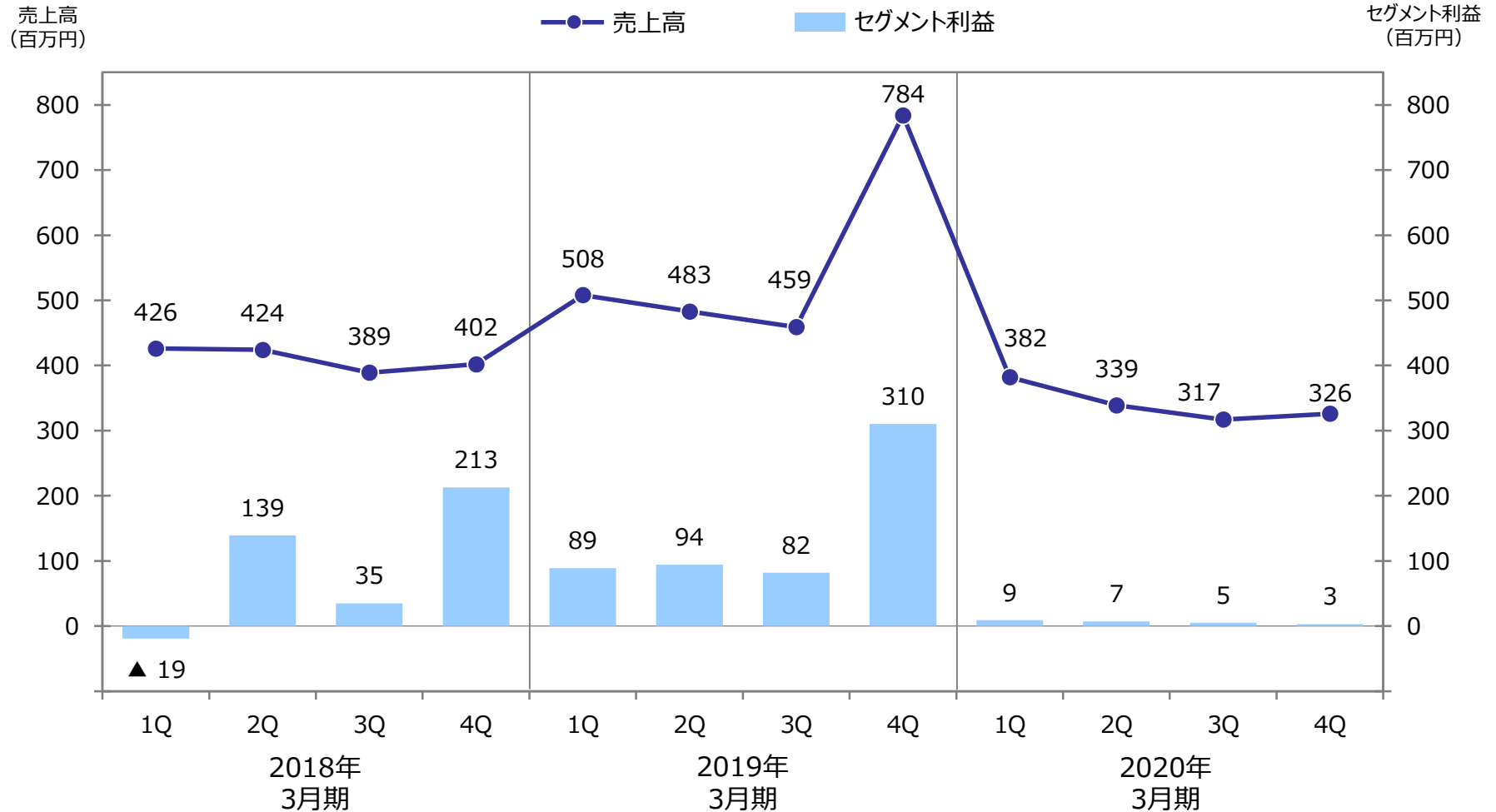


【電子材料事業】 製品別売上高の推移



電子材料事業（四半期業績）

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	2019/3期	2020/3期	増減	前年同期比
売上高	30,999	29,759	△ 1,240	△ 4.0%
売上原価	24,100	23,541	△ 559	△ 2.3%
販売費・一般管理費	4,325	4,345	20	0.5%
営業利益	2,573	1,871	△ 702	△ 27.3%
営業外収益	458	262	△ 196	△ 42.8%
営業外費用	413	408	△ 5	△ 1.2%
経常利益	2,618	1,726	△ 892	△ 34.1%
特別利益	16	232	216	—
特別損失	13	45	32	—
税金等調整前当期純利益	2,620	1,912	△ 708	△ 27.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,274	1,377	△ 897	△ 39.4%
（減価償却費）	1,322	1,441	118	8.9%

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2019/3月末	2020/3月末	増減
流動資産 計	18,019	16,672	△ 1,346
現金及び預金	5,333	4,737	△ 596
受取手形及び売掛金	8,625	8,159	△ 465
たな卸資産 ※	3,752	3,508	△ 243
固定資産 計	20,599	20,890	291
有形固定資産	17,176	17,651	475
無形固定資産	36	37	1
投資その他の資産	3,387	3,202	△ 185
流動負債 計	13,649	12,064	△ 1,585
支払手形及び買掛金	4,121	3,803	△ 317
短期借入金	6,542	5,333	△ 1,209
固定負債 計	10,222	9,751	△ 471
長期借入金	6,850	6,257	△ 592
退職給付に係る負債	3,048	3,111	63
純資産	14,746	15,748	1,001
自己資本	14,700	15,695	995
非支配株主持分	45	53	8
総資産	38,619	37,563	△ 1,056
＜自己資本比率＞	38.1%	41.8%	+3.7%

※ たな卸資産＝商品及び製品＋仕掛品＋原材料及び貯蔵品

キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

	2019/3期	2020/3期	増減
営業キャッシュ・フロー	2,769	2,963	193
税金等調整前当期純利益	2,620	1,912	△ 708
減価償却費	1,322	1,441	118
売上債権の増減額（△は増加）	△ 415	477	892
たな卸資産の増減額（△は増加）	△ 198	246	444
仕入債務の増減額（△は減少）	△ 111	△ 321	△ 210
法人税等の支払額	△ 509	△ 382	127
投資キャッシュ・フロー	△ 3,522	△ 1,407	2,114
有形固定資産の取得による支出	△ 3,561	△ 1,709	1,851
財務キャッシュ・フロー	961	△ 2,151	△ 3,112
借入金の純増減額	1,293	△ 1,804	△ 3,097
現金及び現金同等物 期中増減額	145	△ 596	△ 741
現金及び現金同等物 期末残高	5,333	4,737	△ 596

2021年3月期の業績予想

- 足元の状況から、新型コロナウイルス感染拡大の影響は考慮せず。
- 化成品事業は、半導体・電子部品関連製品の販売増により、増収増益を見込む。
- 機械事業は、プラント販売の減少により、減収減益を見込む。
- 電子材料事業は、ガリウムなどの販売回復により、増収増益を見込む。

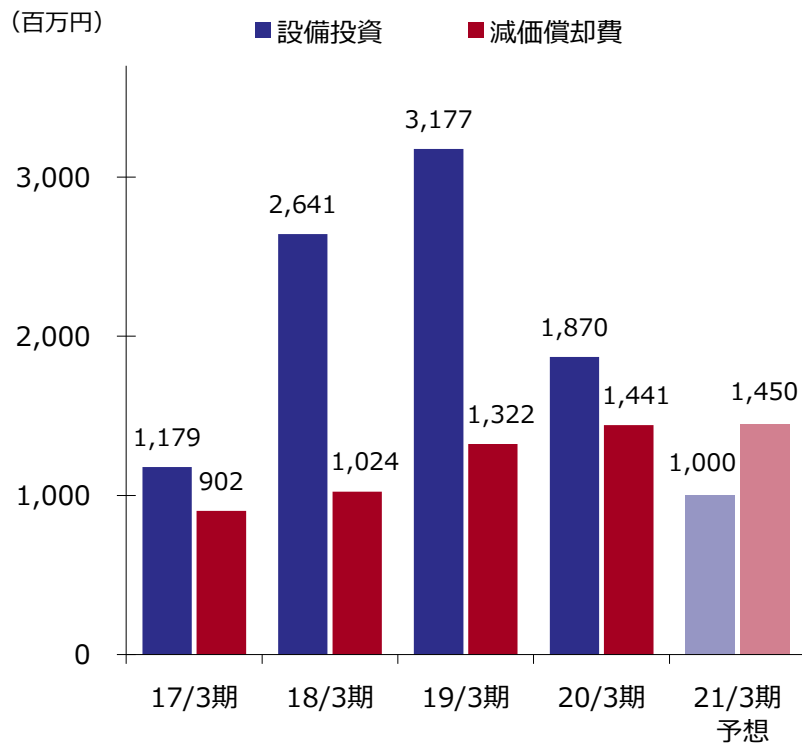
(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期予想	増減	前年同期比
売上高	29,759	31,000	1,241	4.2%
化成品事業	21,089	22,800	1,711	8.1%
機械事業	6,131	5,400	△ 731	△ 11.9%
電子材料事業	1,364	1,600	236	17.3%
その他の事業	1,172	1,200	28	2.4%
営業利益	1,871	1,900	29	1.5%
化成品事業	1,420	1,650	230	16.2%
機械事業	630	450	△ 180	△ 28.6%
電子材料事業	24	100	76	316.7%
その他の事業	754	700	△ 54	△ 7.2%
全社費用など	△ 957	△ 1,000	△ 43	—
経常利益	1,726	1,800	74	4.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,377	1,300	△ 77	△ 5.6%
1株配当金	40.00円	40.00円	—	—

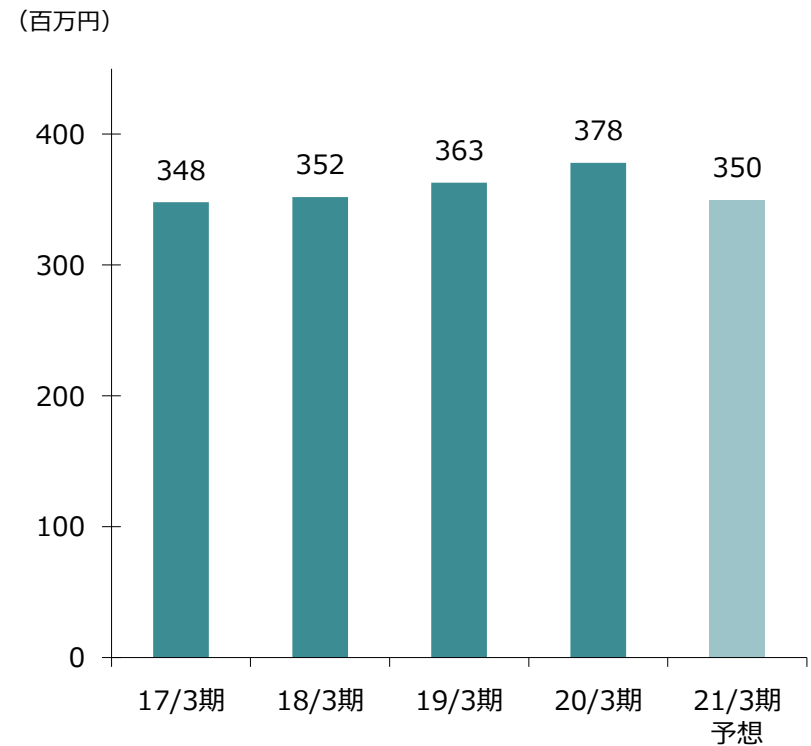
設備投資・減価償却費及び研究開発費の推移

- 設備投資は、主に化成品事業において、コンデンサー向け原料の生産棟を増設。2021年3月期に、段階的に設備を導入開始予定。

設備投資・減価償却費



研究開発費



3. 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画2020（19/3期～21/3期）の概要

中期経営計画2020

～「事業基盤の更なる安定と強化」を目指す～

目 標

1. 連結営業利益 33億円
2. 連結自己資本比率 50%
3. 業績に応じた配当の継続

事業戦略

- ◆ 既存事業の強化・領域拡大
- ◆ グローバル市場への対応強化
- ◆ 新規事業の探索・育成

中期経営計画2020の事業戦略

全社方針

既存事業の
強化・領域拡大

グローバル市場への
対応強化

新規事業の
探索・育成

施 策

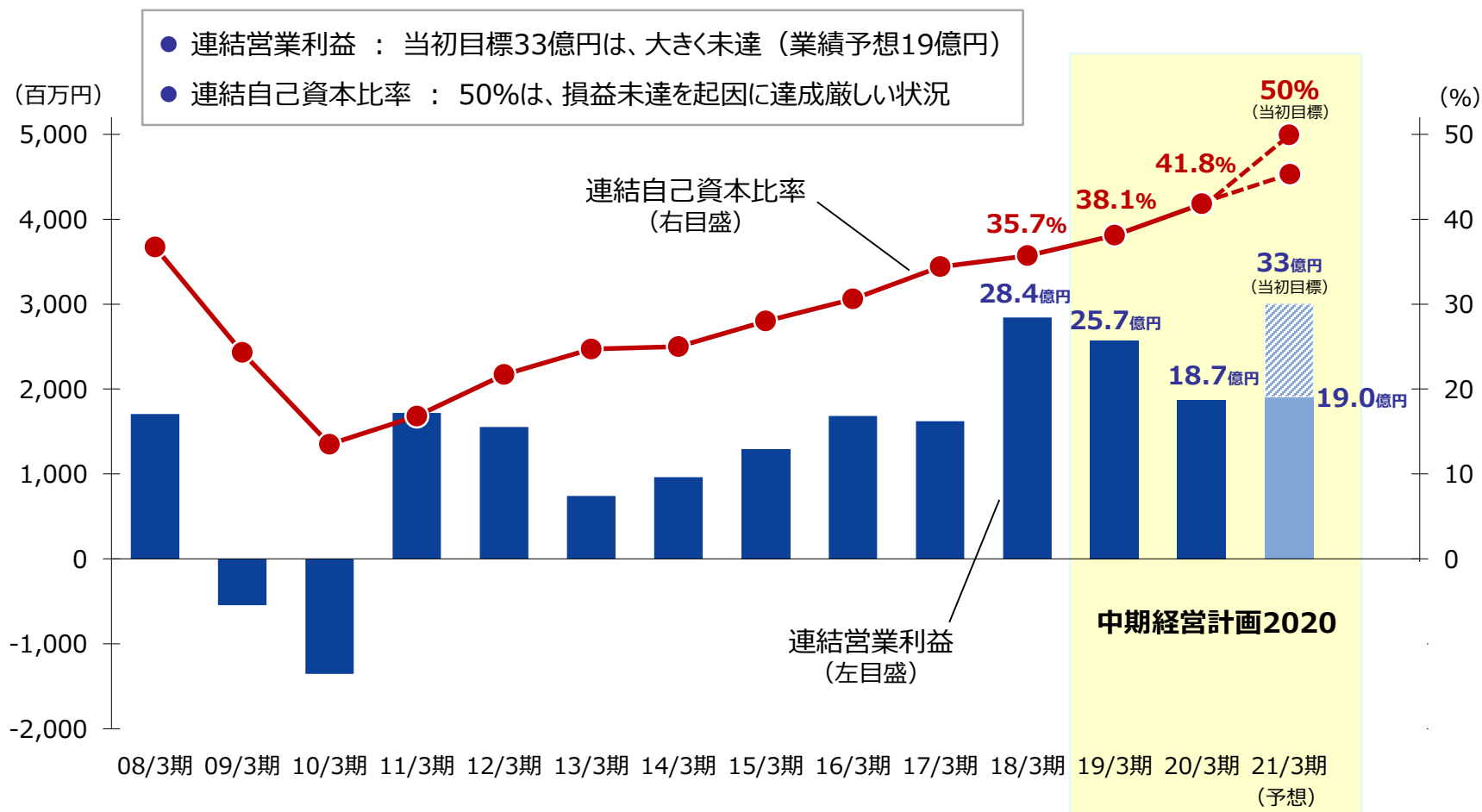
- ✓ 既存商品の拡販による収益向上
- ✓ 営業力強化とユーザーニーズの早期把握
- ✓ 設備維持保全・安定供給力の向上

- ✓ 販売・仕入ともにアジア市場への取組み強化
- ✓ 原料調達及びデリバリーの安定確保の強化

- ✓ 製品開発と営業の連携強化
- ✓ ユーザー拡大と高付加価値化

中期経営計画2020の数値目標

収益力の向上を図るとともに財務体質の一層の強化を目指す
→最終年度（21/3期）の数値目標は未達の予想



中期経営計画2年目（20/3期）の施策と総括

- ✓ 化成品事業は、コンデンサー向け原料がユーザーの生産調整の影響から、計画下回る。
- ✓ 機械事業は、各施策ともおおむね計画通り。

	化成品事業	機械事業	電子材料事業
施策	・高純度リン酸他の拡販 ・グローバル市場での体制強化	・震災復興関連の取り込み ・下水道向け掘進機の海外新規市場の開拓 ・粉体向け機械販売の強化	・高純度無機素材の収益改善策 ・放射性ヨウ素吸着剤（AgX）の営業強化
計画線	・高純度リン酸は、国内外ともに需要が回復	・中間貯蔵施設関連物件、大雨災害関連プラントの販売 ・下水道向け掘進機、東南アジアを中心に堅調 ・バイオマス熱利用装置の販売実現	・タッチパネル用塗布剤は、テレワーク関連需要が追い風
やや遅れ	・コンデンサー向け原料は、ユーザーの生産調整の影響もあり、増産対応を次期繰り越し		・高純度無機素材は、通信分野での需要が低迷し、販売伸びず ・放射性ヨウ素吸着剤（AgX）は、海外向けの販売実現至らず

今期重点施策

化成品事業

- 高純度リン酸他の拡販
 - ✓ 半導体・電子部品関連の需要回復に対応
 - ✓ コンデンサー向け原料の拡販・増産対応
- グローバル市場での体制強化
 - ✓ 各地製造拠点での稼働ロスのない取り組み推進

機械事業

- 下水道向け掘進機の海外新規市場の開拓
 - ✓ 東南アジア新興国、新規市場での販売
- 粉体向け機械販売の強化
 - ✓ バイオマス熱利用装置の販売強化

電子材料事業

- 高純度無機素材の収益改善策
 - ✓ 5 G 関連の需要に注力
- 放射性ヨウ素吸着剤（AgX）の営業強化
 - ✓ 海外向けの販売実現

セグメント別基本戦略

	既存事業の強化・領域拡大	グローバル市場の探索・育成	新規事業の探索・育成
化成品事業	リ サ イ ク ル 事 業 ✓ IoT、AI、車載関係用途の需要拡大 ✓ コンデンサー向け原料の拡販	✓ 高純度リン酸の需要拡大 ✓ 海外関連会社との連携 ✓ 消臭剤の需要リサーチ	✓ 消臭剤の拡販 ✓ 新規開発製品の探索
機械事業	✓ 震災関連事業 ✓ 既存事業の維持	✓ 土木機械・粉体向けの新規開拓	✓ バイオマス熱利用装置の新たな営業展開
電子材料事業	✓ 高純度無機素材の収益改善	✓ 放射性ヨウ素吸着剤 (AgX)の海外向け販売実現	✓ 塗布剤の拡販 ✓ 新規開発製品の探索

新型コロナウイルス感染拡大の影響

■ 事業における主なリスク

- 従業員等の感染による事業活動の中断
- 国内外における移動制限による、営業活動およびサービスの低下
- 世界経済の悪化による、半導体・電子部品市場の減速の懸念

■ 対応策

- 健康と安全を最優先とし、テレワーク・時差出勤を活用し、感染リスクを低減
- 顧客との情報交換頻度を上げ、また協力会社を活用し顧客サービス維持に努める
- 市場動向をモニタリングし、生産体制の見直し等を随時検討

■ 業績予想への影響

- 足元の業績は、新型コロナウイルス感染拡大による悪化は顕在化せず
- 今後は世界経済の悪化から業績に悪影響が出てくる懸念
- しかし、現時点では業績への影響を予想することは困難なため、影響を考慮せず業績予想を作成
- 今後、業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに公表

本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだもののご理解下さい。

－IRに関する問い合わせ窓口－
ラサ工業株式会社 経理部
03-3278-3892